

⑤ 知的障害者の心理

課題：知的障害者の家族に対する心理的支援のあり方についてまとめ、家族支援の重要性について、あなたの体験をふまえて具体的に述べなさい。

知的障害者の家族に対する支援は、知的障害者本人に対する支援と同様にたいへん重要である。生活の幅や質等、つまりQOLの維持、向上には家族の協力なくしては成り立たない部分が多いからである。知的障害者がそれぞれ必要とされている支援、課題が異なるように、家族が抱えている事情、課題は異なるのである。家族にも日々の生活があり、知的障害者の家族に対してだけ注意を払うわけにもいかず、我々支援する側が個々の家族と向き合い、その家族に対して適していると思われる支援を提供していかなければならない。

家族に対しての支援を考えるにあたり、障害のある子が家族の一員として生まれてきたこと、そのことを受け入れていくこと、または受け入れてきた経緯を考えなければならない。先にも述べたとおり、知的障害者とその家族が置かれている状況はそれぞれ異なる。家族のアセスメント情報を把握し、支援を提供する側と家族との間の情報を共有し、方向性を確認できなければ、知的障害者の支援はもちろん家族に対する支援など成立はしない。支援する側が、家族がいわゆる「障害受容の過程」において、どのように乗り越えてきたのか、乗り越えようとしているのかということに対して、心で受け止める、共に考えることも求められているように思われる。

「障害受容の過程」におけるいわゆる段階説

には、

- ①ショックを受け、時に否定する時期
- ②障害の子供を産んだ自分を責めたり、恥と感じたり、罪悪感を持つなど情緒不安定を引き起こす時期
- ③情緒的な混乱を乗り越えて受容、適応する時期

の3段階からなると言われている。私が施設で担当している利用者のKさんは、出産時の吸引分娩失敗により脳に障害を患った。右腕と左足に麻痺があり、歩行バランスも悪く、転倒リスクも高いため単独での歩行は困難な利用者である。母親は、Kさんが幼い頃から少しでも改善してほしい一心で、様々な療育機関に足を運び、講習も受けてきたが、結果としてKさんの弟、妹たちに負担や寂しい思いをさせてしまった時期が長く続いたことを担当職員で私に話してきた。家族の乱雑、両親の負担を軽減させたのが、現在私が勤務している施設と出会いであったとの事である。こうした公的な支援は、もちろん家族も本人にも大いに助けられるものであることは間違いなく、そうした支援が提供できるように、私達支援する側は、障害者が利用できる様々な制度や地域の資源や、様々なネットワークについての確かな知識を獲得し、本人はもちろんのこと家族にその方法を提供し、本人、家族の生活の質の向上に働きかけていかなければならない。

また、家族に対しての心理的支援も大変重要である。障害を持つ子とこれからも一緒に歩んでいくことに対する不安、心の葛藤に対して、我々が専門家として寄り添って支援していく必要がある。大切なのは一緒に考えることであると思われる。人は、他人の心理を理解することは大変難しく、完璧に理解することは不可能である。しかし、人は他人の立場に自分を置き換えて物を考えようとすることはできる。知的障害者がどのような支援をして欲しいのか、家族が子どもに対してどのような支援を望んでいるのか、どのようなことに対して不安を抱いているのか、どのような時にも我々が相手の立場に立って考える努力をしていくことが、知的障害者、家族との信頼関係を構築していくことにつながる。

先ほども事例としてあげたKさんは、施設のある市内に実家があり、週に一度の帰宅を楽しみにされている。帰宅の日になると施設の窓から駐車場を見つめ、父親の車が入ってくるのを待っている。しかし、Kさんは施設の食堂でしか食事を食べたがらず、外出先や自宅ではほとんど拒食されてしまう。本人も帰宅は楽しみとしてい

るが、帰宅の度に食事を拒否されることに母親の心労も重なっていた。拒食の相談を受けた私は、他の支援員と医務を交えて協議し、栄養補助飲料を処方させてもらえないかということ提言し、家族にも了解を得て、拒食が見られる際に提供することにした。このことで母親は、Kさんの帰宅時に拒食について悩まされることが減り、外出などで食事を気にしすぎることなく計画をたてることが出来るようになった。それから、両親ともに担当である私だけでなく、他の支援員にも笑顔でKさんの話しをされる場面が増えてきたように感じる。施設、職員、家族との間の信頼関係が少し深まったと担当として感じた事例である。

家族の心理的な支援には、支援員が傾聴の姿勢を持ち、相手の立場に自分を置き換えて考える努力を怠らないことが最も重要であると考える。家族が抱えている課題、不安、悩みに対して、寄り添い、共に考え、より良い支援が提供していけるように信頼関係、協力関係を構築していかなければならない。

講評：

家族支援に関するポイントが非常に簡潔にまとめられており、また、事例に基づいた慎重な考察もなされている優れたレポートである。

家族主導、タイミングの良い提案、多専門的な連携など重要な示唆に富む内容でした。